

クサノオウ

Chelidonium majus var. asiaticum

ケシ科

名前の由来

切ると黄色い汁が出るため。丹毒を治す「瘡の王」だともいい、また「草の黄」であるという説もある。漢字名：草の黄

形態的特徴

高さ30～80cmで、全体に毛が多く生え、粉白色を帯びる。葉は羽状に深く裂けて小葉に分かれ、縁は不規則に深く切れ込む。花は黄色で径が2～2.5cmで4枚の花びら（花弁）をもち、つぼみの時にやわらかい毛が多くはえる。植物の一部を切ると黄色い汁が出る。

類似種：特に無い。



クサノオウ。毒（薬）草である



クサノオウ。花



クサノオウ。実



クサノオウ。つぼみには毛が多い



クサノオウの若芽。複雑な形

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期			■									

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

林縁や草地のやや湿った所に散在し、道端、荒地でもよく見られる。

分布：国外分布は、東アジアの温帯。ヨーロッパ及び西アジアのものは染色体数が違うので、変種にとりあつかわれる。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、林縁や草地のやや湿った所に散在し、道端、荒地でもよく見られる。



クサノオウ

生活史

開花時期：5～8月

開花までの年数：2年

寿命：二年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■全草に有毒成分のアルカロイドを含み、誤食するとけいれんし、呼吸マヒになる。有毒植物である反面、薬効もあり、湿疹や疥癬、田虫、イボなどの皮膚疾患に効果があるという。

■若芽は山菜のエゾエンゴサクに似るので注意が必要。

■十勝地方のアイヌ語では「オトンブイキナ」という。

■アイヌ語名オトンブイキナは「肛門・草」の意で、痔の

時には茎をさすと良く、黄色い汁が効くのだという。葉を湿布薬として使うこともあり、煎じて飲むこともあるが苦いので飲みにくいという。



クサノオウ。若芽



クサノオウ

配慮事項

特になし。

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃西社 2002

「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992

「知里真志保著作集 別巻I 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類